

日 時：平成 30 年 6 月 27 日（水）13:30～15:45

出 前 先：此花区役所講堂 A・B

受 講 者：此花区民の皆様（40 名）

講 師：菅野耕三先生（大阪教育大学名誉教授）

授業題目：「此花区の地盤と自然災害－備えましょう－」

本出前授業は、このはな区民学芸員まち案内の会主催の講演会講師を務める形式で実施し、此花区民、同会の会員 40 名が受講された。講師は、大阪教育大学名誉教授 菅野耕三先生にお願いしました。

菅野先生の授業に先立って、本講演会を主催されたこのはな区民学芸員まち案内の会 石谷会長より開会の挨拶をいただきました。次に、大阪市此花区役所市民協働課危機管理グループ 東様より「災害の備え」と題して 6 月 18 日に起きた大阪府北部を震源とする地震の概要、今後予想される地震、家庭でできる防災・減災のための対策、家族で事前に安否確認手段を決めておくことの重要性を説明いただきました。

菅野先生には「此花区の地盤と自然災害－備えましょう－」と題した講演をいただきました。各地で発生している近年の地震災害の事例を紹介され、災害がいつ何時身近に起こるか予測できないものであり、常に備えておくことの重要性が指摘されました。次に地震災害に関して、大阪府周辺の活断層の分布、海溝型地震と内陸型地震の違いを説明されました。また、此花区は西島などの地名からもわかるように多くが埋立地であり、液状化の危険性が高いことも指摘されました。また、地震後のクラッシュシンドロームや通電火災への対応など阪神大震災時の重要な教訓を紹介いただき、阪神大震災を契機に市民への広報の重要性を認識し、地盤工学会関西支部による市民向け活動を開始した契機について説明いただきました。

続いて、此花区の地盤の成り立ちについて説明がなされた。大阪湾周辺の海岸線の推移、埋立地が大半で表層の N 値は総じて小さいこと、地下水の汲み上げによる地盤沈下の経緯、標高が低いことに起因する高潮、津波への備えの必要性等が説明された。

豪雨災害に関しても解説いただき、マンホールや側溝からの水、アンダーパスの危険性を指摘されるとともに、道路に水が溢れている場合には避難が危険であることを強調されました。

最後に先生は、様々な災害を想定した備えの積み重ねと命を守るために自らが判断する自助、およびご近所同士での共助の意識が最も重要であることを強調され、講演を締めくくられました。

文責：乾 徹（大阪大学）

